別紙１－１

まちづくり市民アンケート　集計結果

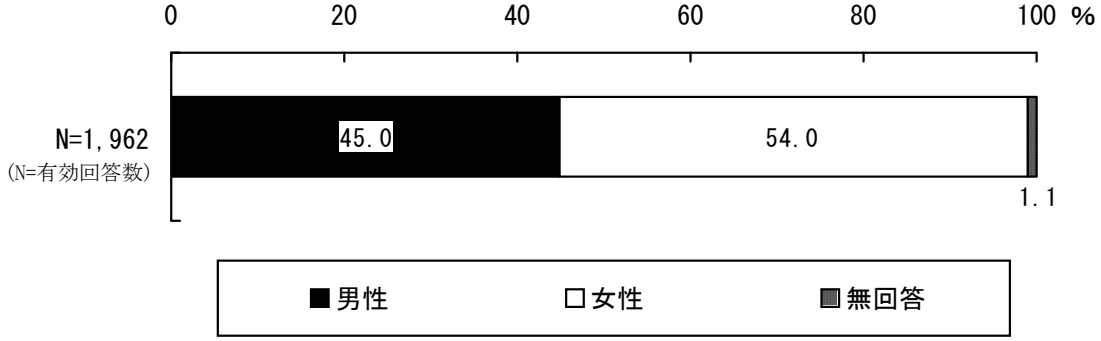
１　有効回答数

・　1,962（回答率 49.1%）　　※標本数は 4,000

２　回答者の属性

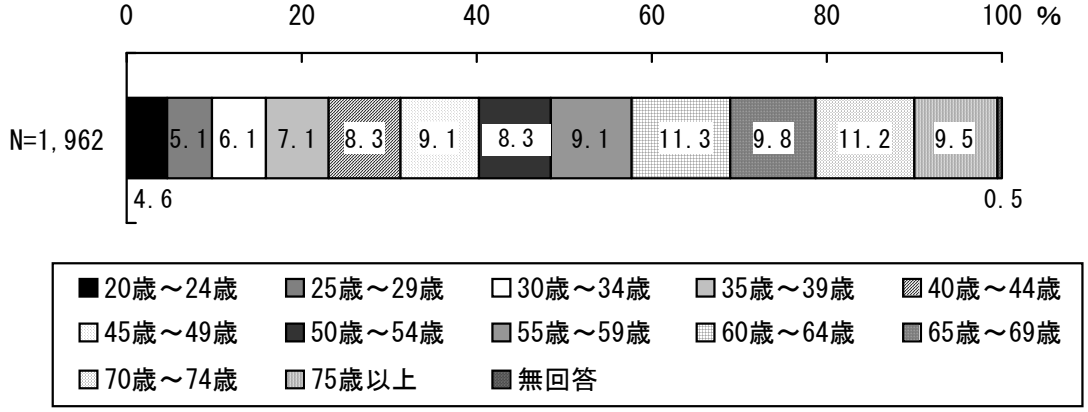
(1) 性別

・　回答者を性別でみると，54.0%と女性が若干多い。



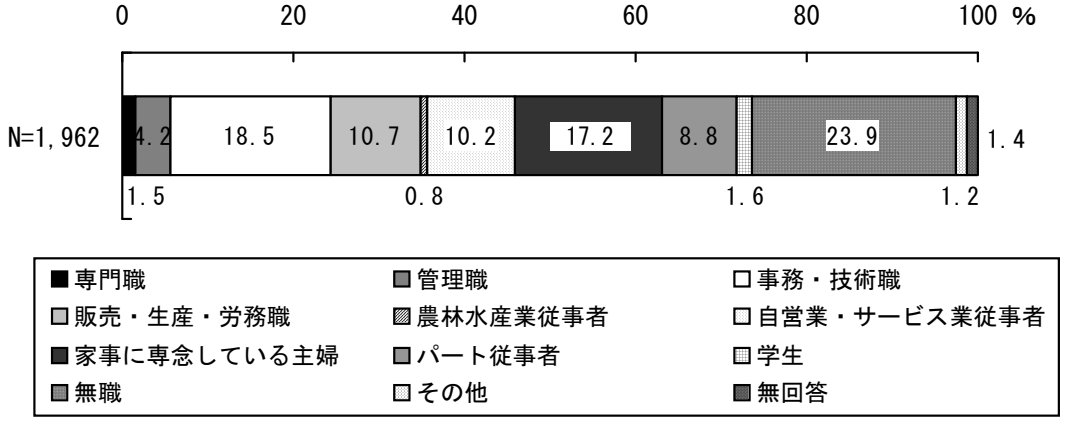
(2) 年齢

・　年齢別で見ると，おおむね全ての世代からまんべんなく回答を得ている。ただし，20 代及び 30 代の回答数が他の世代と比べて少ない点は，留意が必要と考えられる。



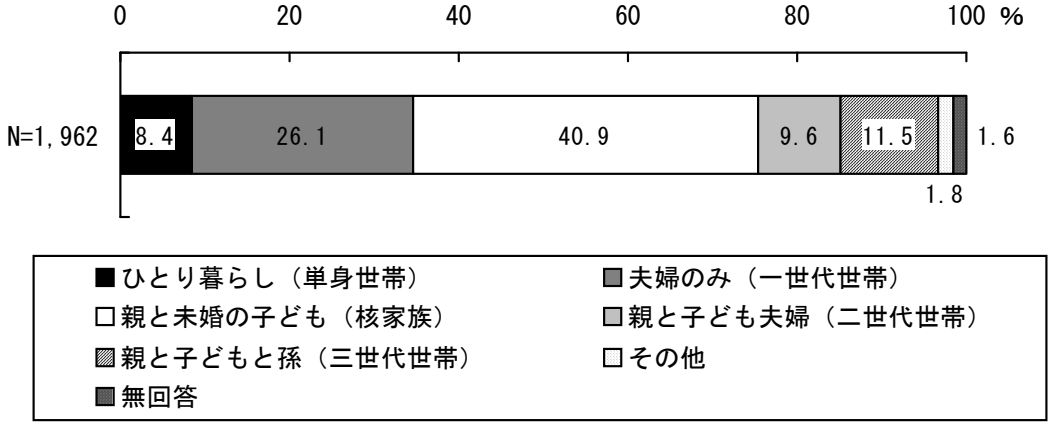
(3) 職業

・　回答者の職業は，無職，事務・技術職，主婦，販売・生産・労務職，自営業・サービス業従事者の順に多い。



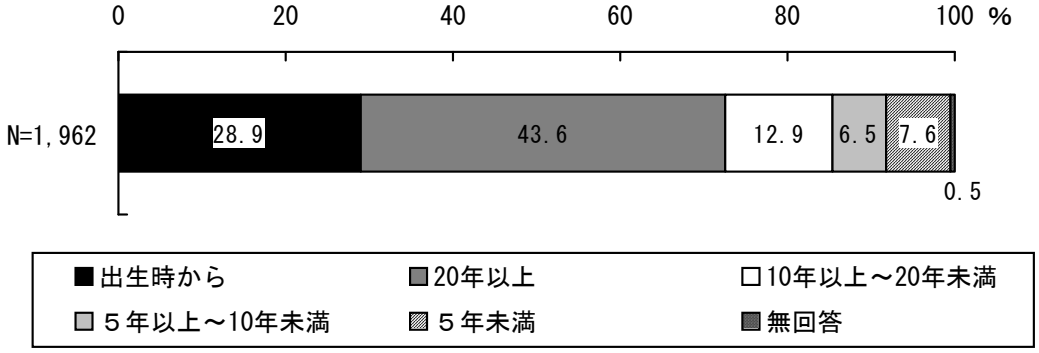
(4) 家族構成

・ 家族構成は，核家族が回答者の約 4 割を占めている。



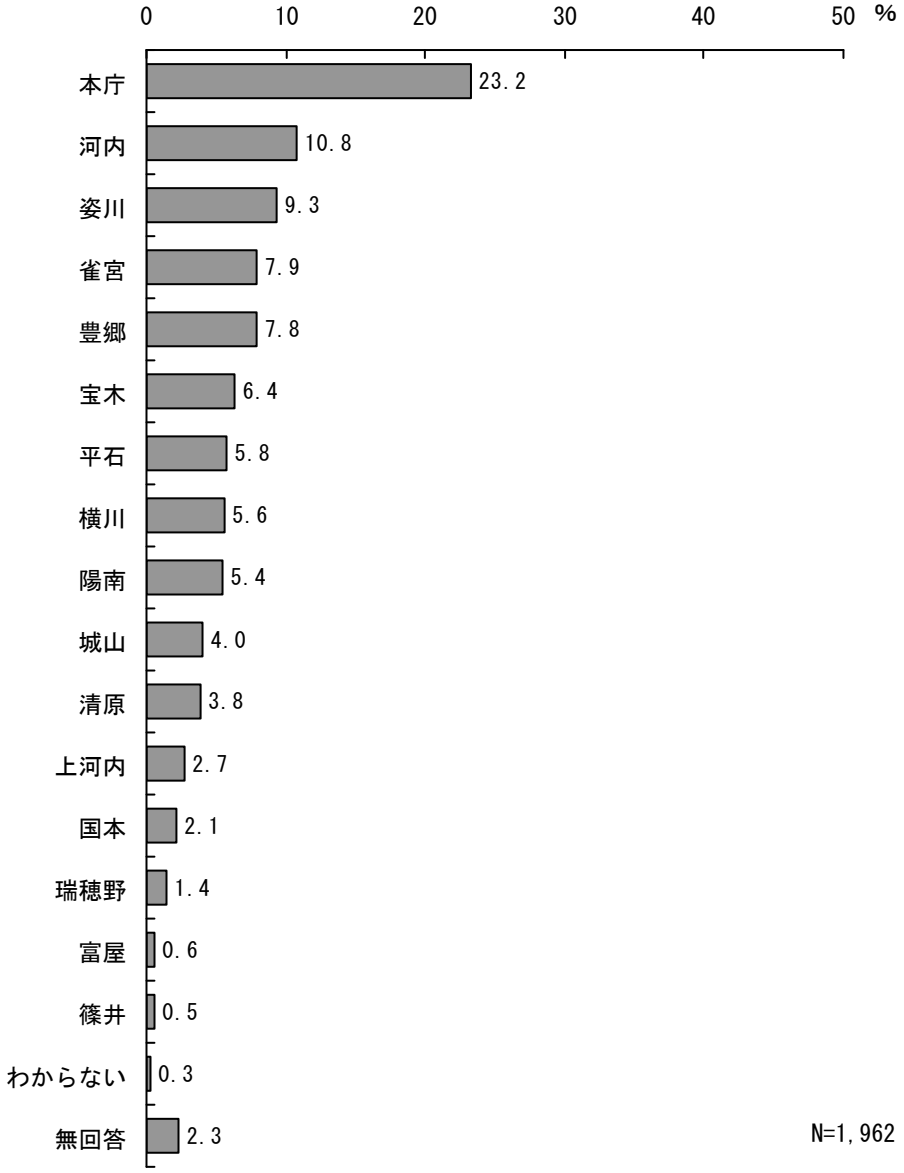
(5) 居住歴

・ 居住歴は，10 年以上の回答者が全体の 8 割を超えている。



(6) 居住地域

・　居住地域は，本庁，河内，姿川，雀宮，豊郷の順に多い。



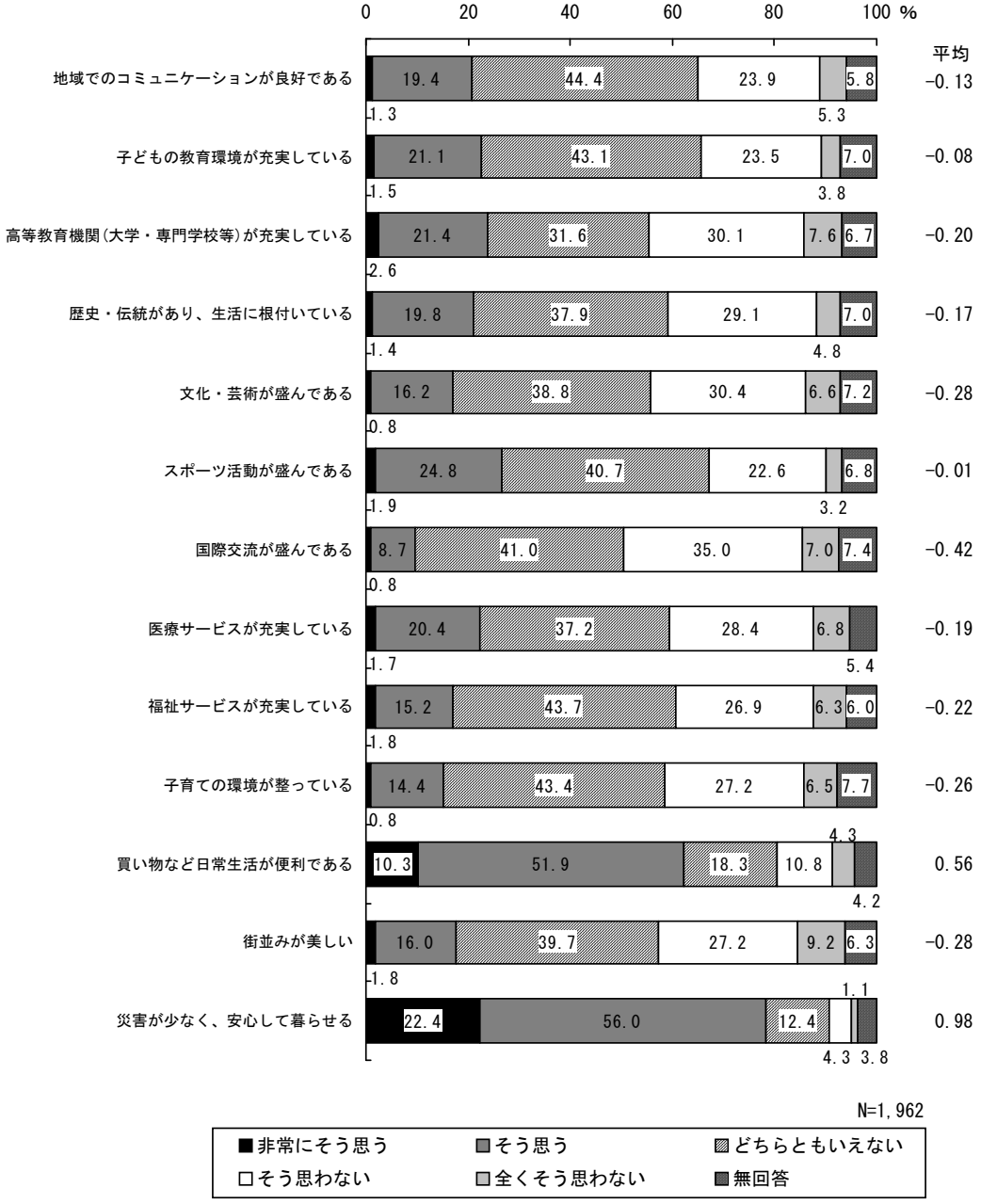
３　アンケート結果の概要

(1) 宇都宮市の「強いところと弱いところ」について

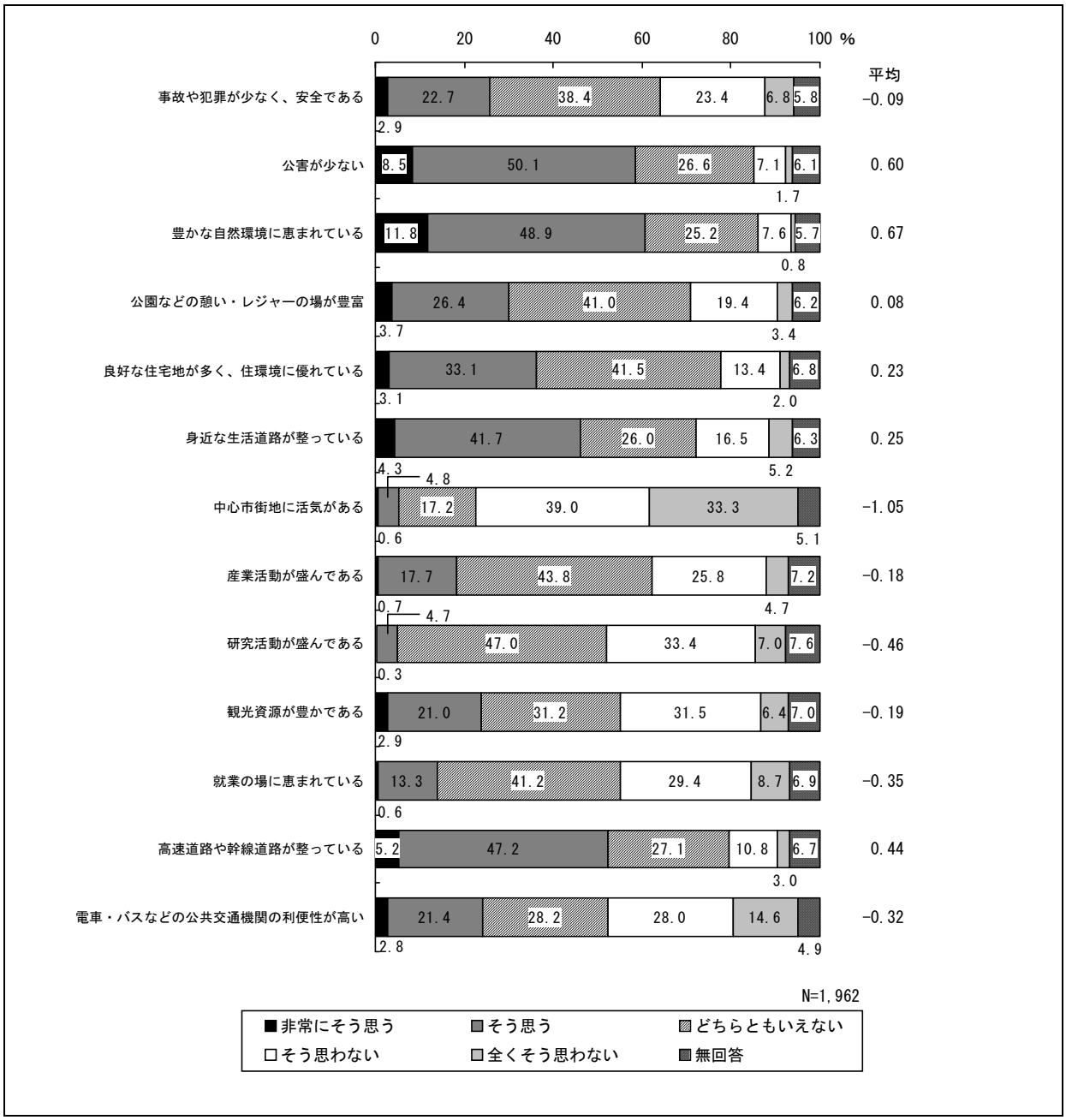
問　あなたは，現在の宇都宮市について，どのように感じていますか。当てはまるものをア～オから選んで○を付けてください。（○はそれぞれ１つ）

　また，宇都宮市が今後，より良い都市として発展していくためには，どの項目が重要であると思いますか。重要と思う項目を選んで右欄内に○を付けてください。（○は５つ以内）

◆ “災害の少なさ”，“日常生活の便利さ”，“自然環境の豊かさ”，“公害の少なさ”，“高速道路や幹線道路の整備状況”について半数以上が「強み」と捉えられている。一方で，「弱み」としては，“中心市街地の活力の低下”をあげる者が多い



（次頁につづく）



◆宇都宮市の強み

・　宇都宮市の強みに関する評価を「非常にそう思う」,「そう思う」,「どちらともいえない」「そう思わない」,「全くそう思わない」の５段階で得た。

・　「非常にそう思う」,「そう思う」を合わせた回答を,「強み」として捉えると,「災害が少なく，安心して暮らせる」(78.4%),「買い物など日常生活が便利である」(62.2%),「豊かな自然環境に恵まれている」(60.7%),「公害が少ない」(58.6%),「高速道路や幹線道路が整っている」(52.4%) の順に評価が高かった。

・　その他，30%以上が「強み」としたものは,「身近な生活道路が整っている」(46.0%)「良好な住宅地が多く，住環境に優れている」(36.2%)「公園などの憩い・レジャーの場が豊富」(30.1%)の３つであった。

◆宇都宮市の弱み

・　一方で,「そう思わない」,「全くそう思わない」を合わせた回答を,「弱み」として捉えると,「中心市街地に活気がある」(72.3%) を弱みとする回答が最も多かった。

・　その他, 30%以上が「弱み」としたものは,「電車・バスなどの公共交通機関の利便性が高い」(42.6%),「国際交流が盛んである」(42.0%),「研究活動が盛んである」(40.4%),「就業の場に恵まれている」(38.1%),「観光資源が豊かである」(37.9%),「高等教育機関（大学・専門学校等）が充実している」(37.7%),「文化・芸術が盛んである」(37.0%),「街並みが美しい」(36.4%),「医療サービスが充実している」(35.2%),「歴史・伝統があり,生活に根付いている」(33.9%),「子育ての環境が整っている」(33.7%),「福祉サービスが充実している」(33.2%),「産業活動が盛んである」(30.5%),「事故や犯罪が少なく安全である」(30.2%) であった。

・　このように, 30%以上を基準とした場合については,「強み」と回答された項目と比較し,「弱み」と回答された項目が多かった。

◆「強み」と「弱み」の評価点の算出

・　「宇都宮市の強いところと弱いところ」の評価を, ５段階で尋ねているため, それぞれを得点化することによって, 強み・弱みを総合した評価点を算出した。

評価点は次のように算出

①「非常にそう思う」を 2 点,「そう思う」を 1 点,「そう思わない」を-1 点,「全くそう思わない」を-2 点とする

②各回答の得点を, それぞれの回答数で乗じた後, 合計する

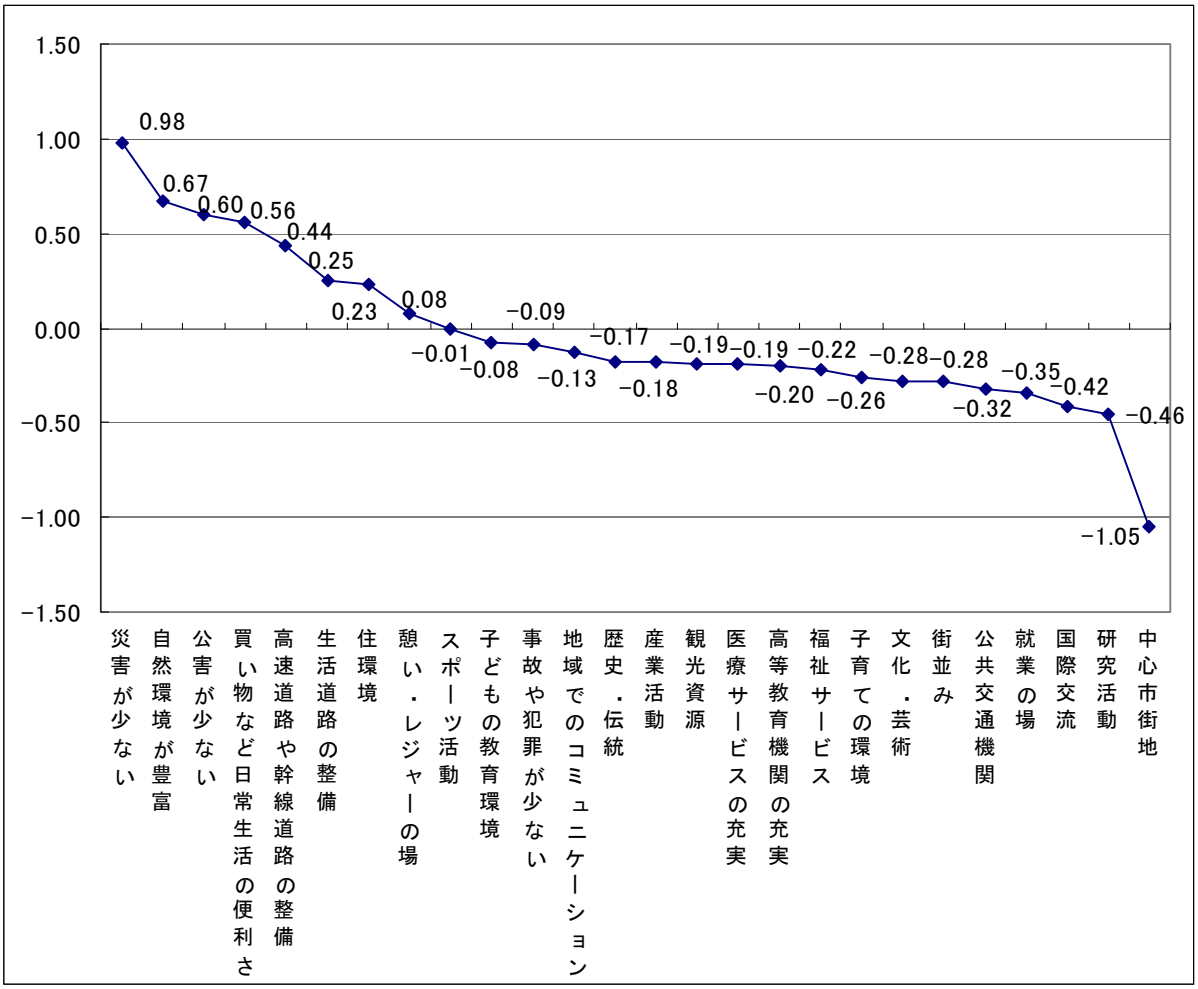
③全回答数で②を除する

上記の算出方法においては, ＋2 点に近いほど, 回答者が「強み」として評価していると捉え, 逆に－2 点に近いほど「弱み」として評価していると捉える。

・　評価点がプラスであったものは,点数が高い順に,「災害が少なく,安心して暮らせる」(0.98),「豊かな自然環境に恵まれている」(0.67),「公害が少ない」(0.60),「買い物など日常生活が便利である」(0.56),「高速道路や幹線道路が整っている」(0.44),「身近な生活道路が整っている」(0.25),「良好な住宅地が多く, 住環境に優れている」(0.23),「公園などの憩い・レジャーの場が豊富」(0.08) であった。

・　上記以外のものは評価点がマイナスであった。特に,「中心市街地に活気がある」(-1.05) の点数は低い。次いで,「研究活動が盛んである」(-0.46),「国際交流が盛んである」(-0.42),「就業の場に恵まれている」(-0.35),「電車・バスなどの公共交通機関の利便性が高い」(-0.32) の順に点数が低い。

〔宇都宮市の強みと弱みの評価点〕

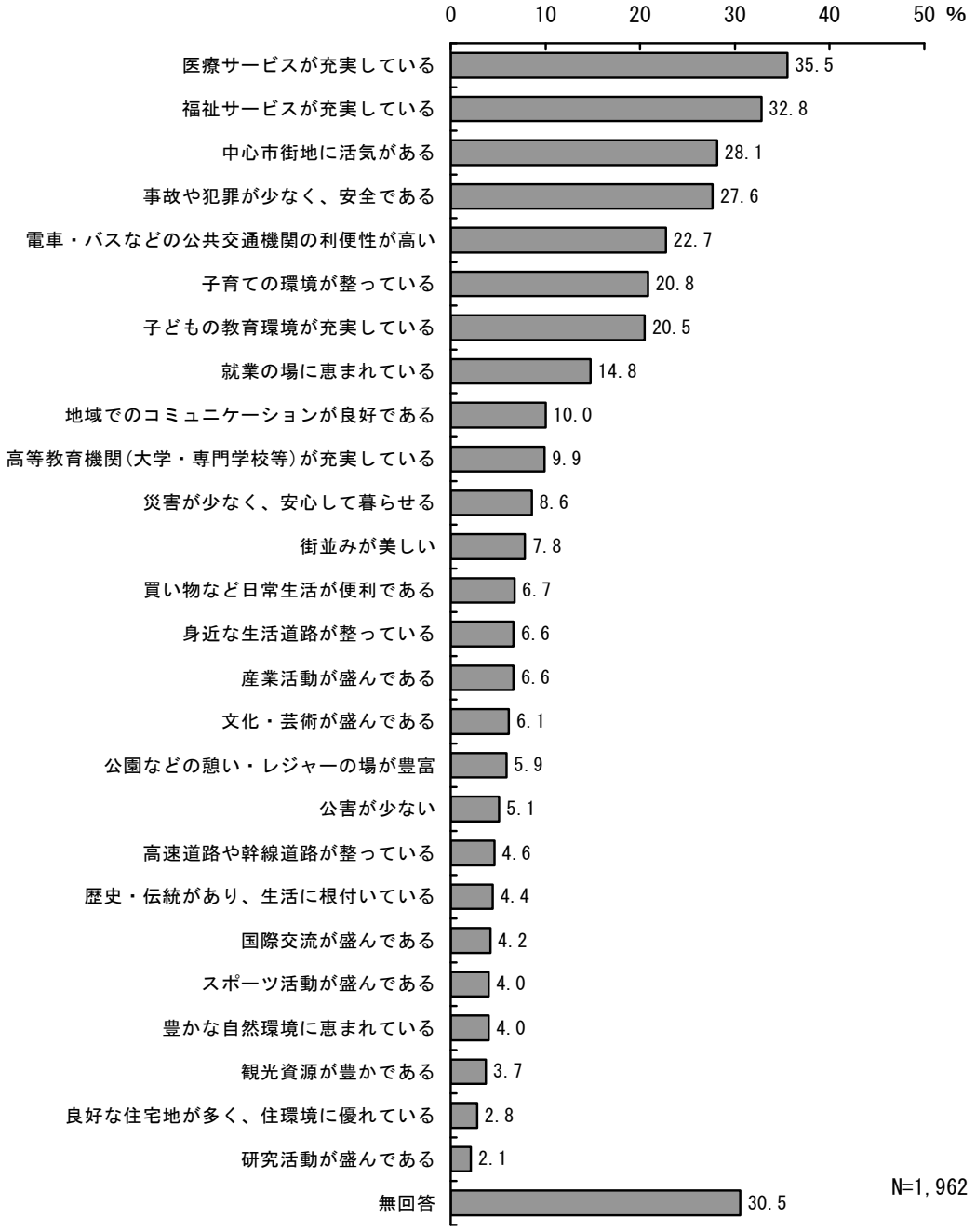


(2) 宇都宮市の「今後の重点項目」について

問　あなたは，現在の宇都宮市について，どのように感じていますか。当てはまるものをア～オから選んで○を付けてください。（○はそれぞれ１つ）

また，宇都宮市が今後，より良い都市として発展していくためには，どの項目が重要であると思いますか。重要と思う項目を選んで右欄内に○を付けてください。（○は５つ以内）

◆ **医療サービス，福祉サービスなどが今後の重点項目と捉えられている**

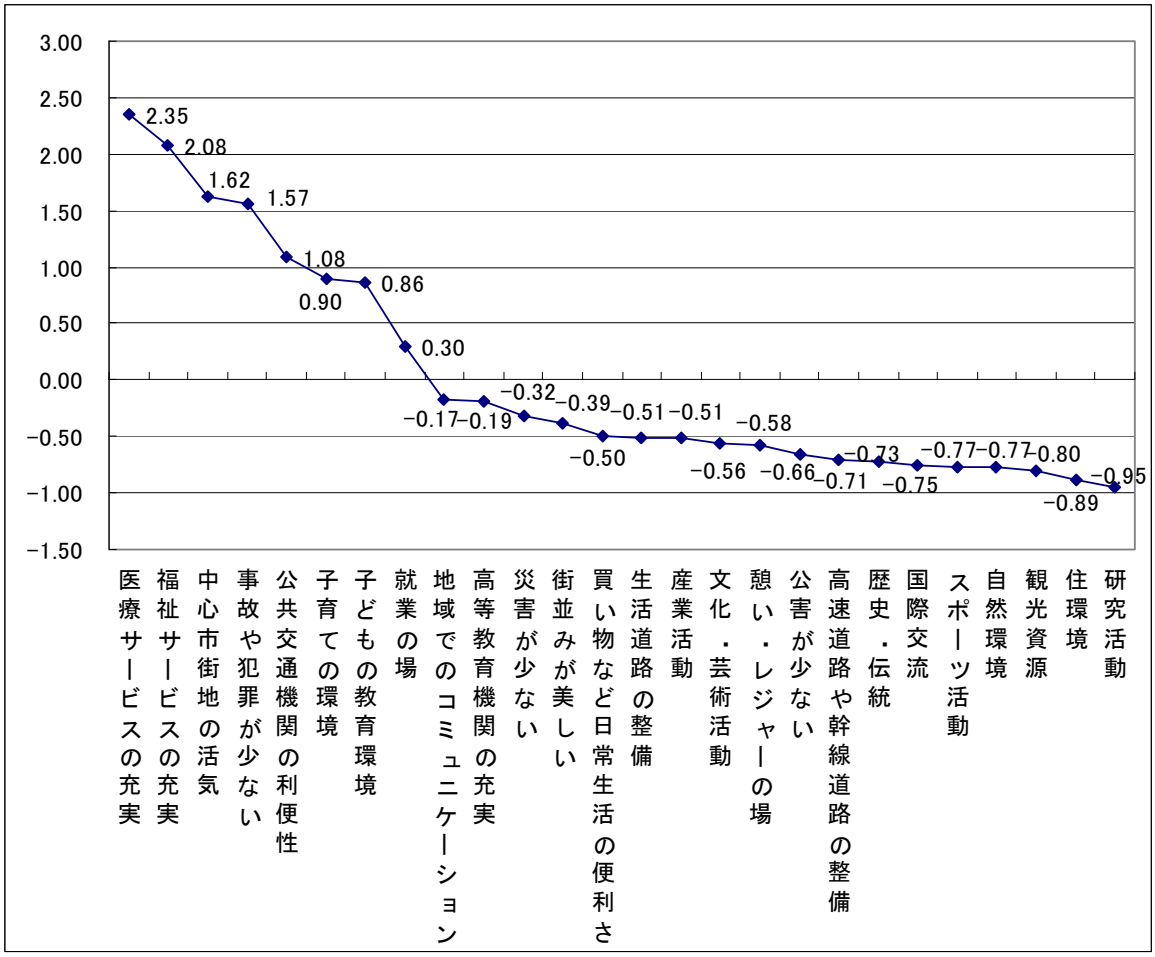


・　宇都宮市の今後の重点項目については，５段階評価ではなく，「５つ以内の選択」により回答を得ている。

・　このうち，「今後，重要と思う項目」として多くの回答を得たものを順にあげると，「医療サービスが充実している」(33.5%)，「福祉サービスが充実している」(32.8％)，「中心市街地に活気がある」(28.1%)，「事故や犯罪が少なく，安全である」(27.6%)，「電車・バスなどの公共交通機関の利便性が高い」(22.7%)，「子育ての環境が整っている」(20.8%)，「子どもの教育環境が充実している」(20.5%) となる。

・　一方で，回答が少なかったもの（ここでは，回答率が 5%未満のものとする。）には，「研究活動が盛んである」(2.1%)，「良好な住宅地が多く，住環境に優れている」(2.8%)，「観光資源が豊かである」(3.7%)，「豊かな自然環境に恵まれている」(4.0%)，「スポーツ活動が盛んである」(4.0%)，「国際交流が盛んである」(4.2%)，「歴史・伝統があり，生活に根付いている」(4.4%)，「高速道路や幹線道路が整っている」(4.6%) があった。

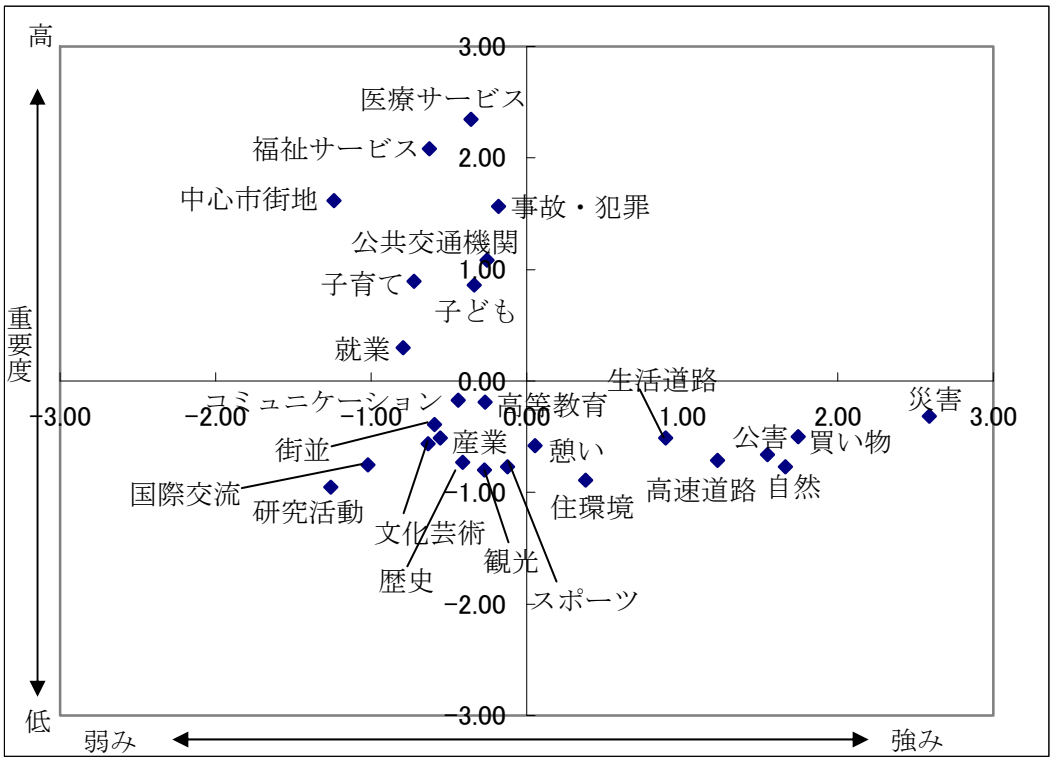
〔宇都宮市の重点項目の評価点〕



(3) 取組の優先順位の高い領域の項目

- 強み・弱みの評価点と，重点項目の評価点の関係性をみることで，取組の優先順位の高い領域の項目を確認する。
- 取組の優先順位が高い領域は，重要度が高く，かつ宇都宮市全体として弱みとされたものであると考えられる。散布図をみると，こうした領域には，「医療サービスの充実」，「福祉サービスの充実」，「中心市街地の活気」，「事故や犯罪が少ない」，「公共交通機関の利便性」，「子育ての環境」，「子どもの教育環境」，「就業の場」が当てはまってくる。

〔強み・弱みと重点項目との相関図〕

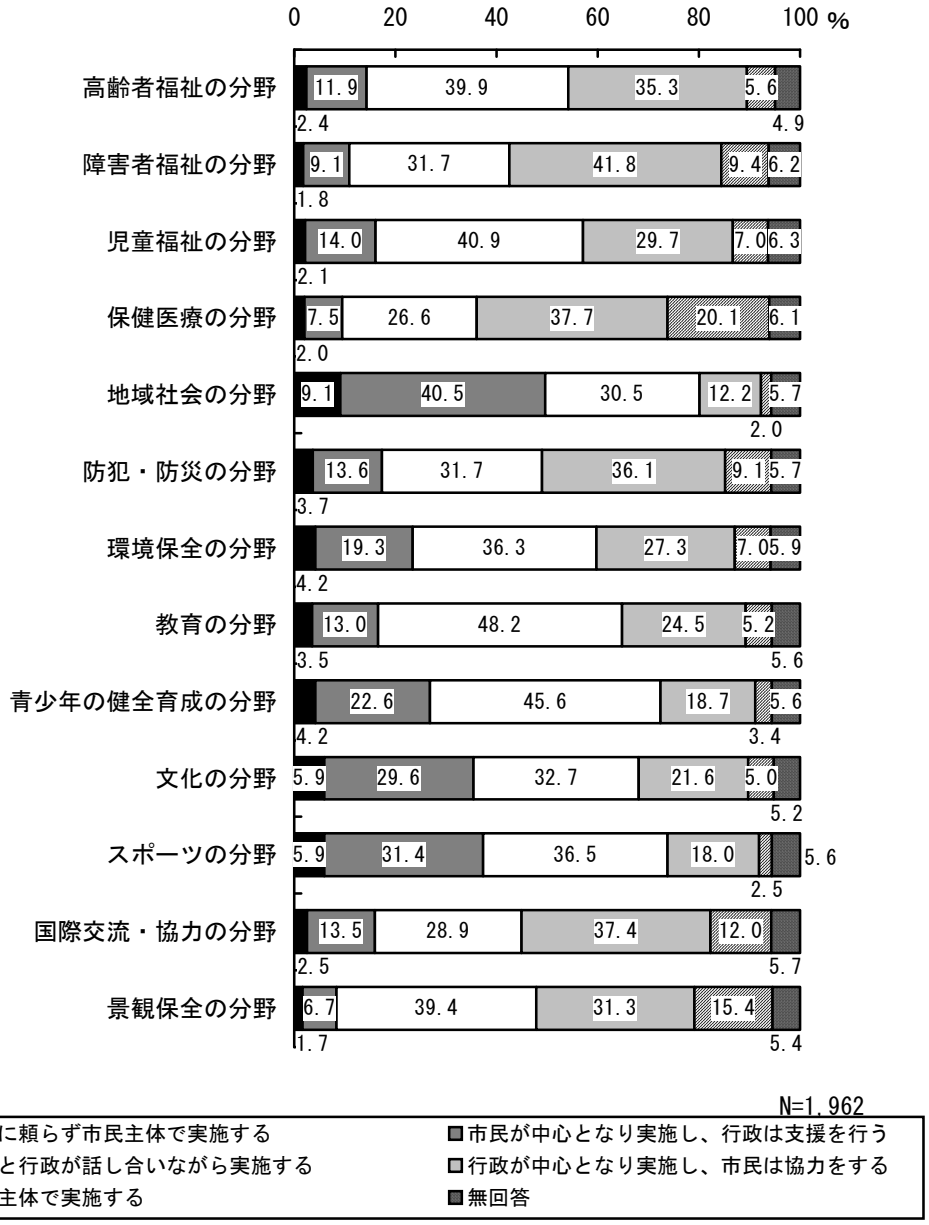


(4) 市民と行政の協働によるまちづくりについて

問　協働によるまちづくりとは，さまざまな公共の課題を解決するため，市民（事業者等も含む）と行政が，適切な役割分担のもと，それぞれの特性や能力を発揮しながら，良きパートナーとして連携・協力しあいながら，まちづくりに取り組むことです。

今後，協働によるまちづくりを進める上で，次の分野のそれぞれにおいて，どのような役割分担がふさわしいと思いますか。当てはまるものをア～オから選んで○を付けてください。（○は１つずつ）

◆「地域社会の分野」のほか，「スポーツの分野」や「文化の分野」などが，市民主体の取組としてふさわしいと考えられている

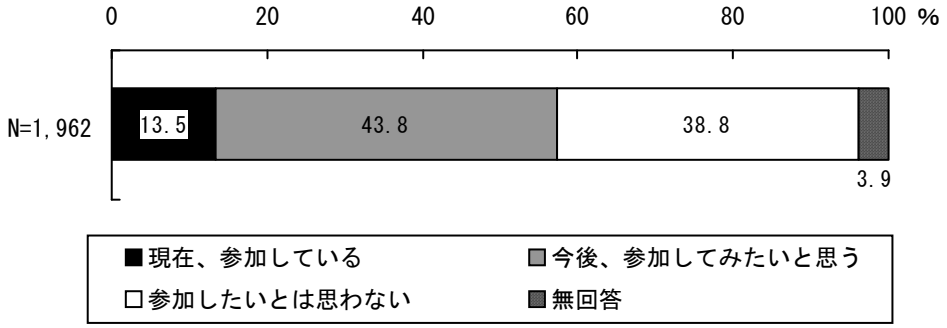


・　協働のまちづくりを進めるうえでの役割分担のうち，「行政に頼らず市民主体で実施する」及び「市民が中心となり実施し，行政は支援を行う」を市民主体の実施がふさわしいものとし，それぞれの回答の合計を確認する。
・　結果として，「地域社会の分野」(49.6%)，「スポーツの分野」(37.3%)，「文化の分野」(35.5%)，「青少年の健全育成の分野」(26.8%)，「環境保全の分野」(23.5%) については，市民主体の実施がふさわしいとする回答が 2 割以上となった。
・　一方，「行政が中心となり実施し，市民は協力をする」及び「行政主体で実施する」を行政主体の実施がふさわしいものとし，それぞれの回答の合計を確認する。
・　結果として，「保健医療の分野」(57.8%)，「障害者福祉の分野」(51.2%)，「国際交流・協力の分野」(49.4%)，「景観保全の分野」(46.7%)，「防犯・防災の分野」(45.2%)，「高齢者福祉の分野」(40.9%) については，行政主体の実施がふさわしいとする回答が 4 割以上となった。
・　また，市民主体の実施がふさわしいとする回答が 2 割を超えたものであっても，「地域社会の分野」以外は，同時に，行政主体の実施がふさわしいとする回答が 2 割から 3 割ある。

(5) 市民活動について

問　あなたは，市民活動（地域のイベント開催や防災活動などのコミュニティ活動や，福祉や教育分野でのボランティア活動など）に参加してみたいですか。次の中から選んでください。（○は１つ）

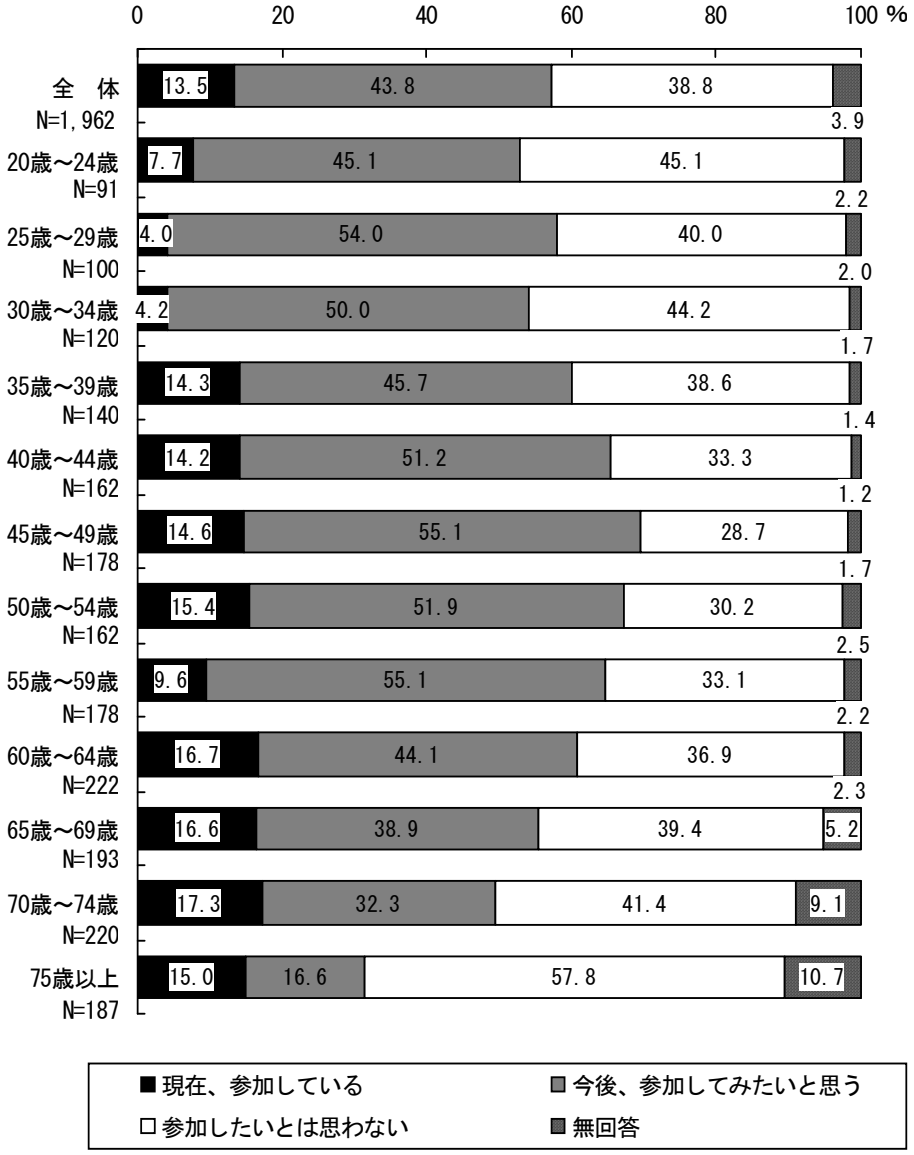
◆「今後，参加してみたい」を含め，市民活動への参加意向があるとする回答が半数以上



・　市民活動への参加意向については，「現在，参加している」ないし「今後，参加してみたいと思う」という回答が，5 割を超えている。
・　このうち，実際に参加している者の割合は，全体の 1 割強である。一方で，約 4 割は「参加してみたいとは思わない」としている。

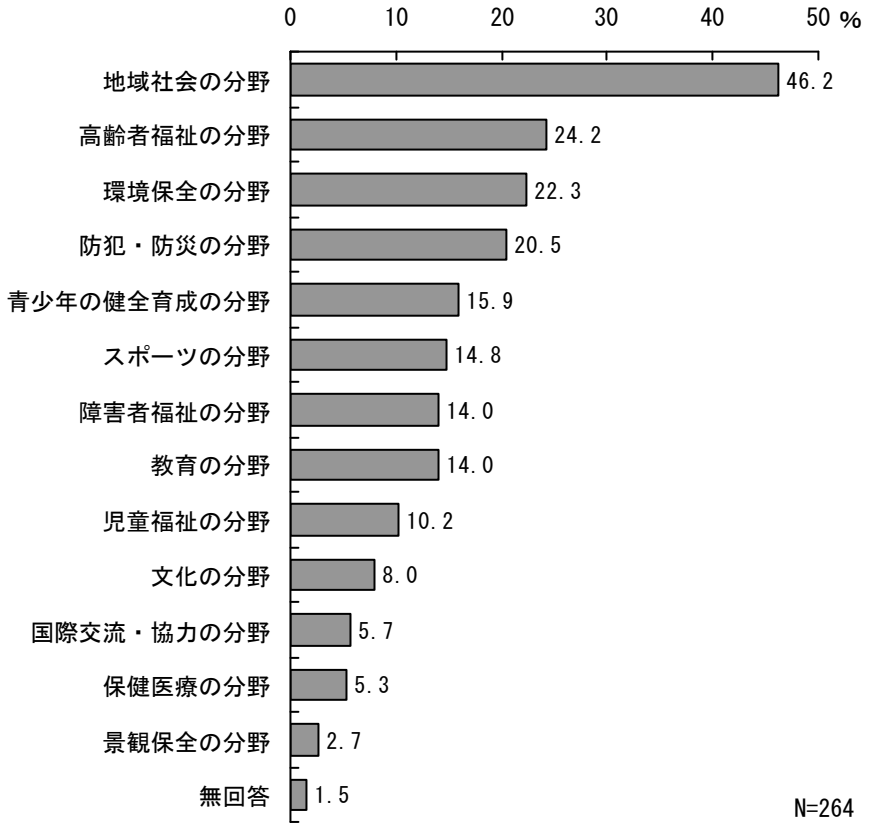
〔参考　「問　市民と行政の協働によるまちづくりについて」と年齢の掛け合わせ集計〕

◆ **年齢別にみると，40～50 代で「現在，参加している」ないし「今後，参加してみたいと思う」と回答する割合が多い**



問　あなたが，参加している市民活動は，どんな分野ですか。当てはまるものすべてを選んで番号に○を付けてください。（○はいくつでも）

◆　参加している活動で多いのは,「地域社会の分野」のほか,「高齢者福祉の分野」,「環境保全の分野」,「防犯・防災の分野」

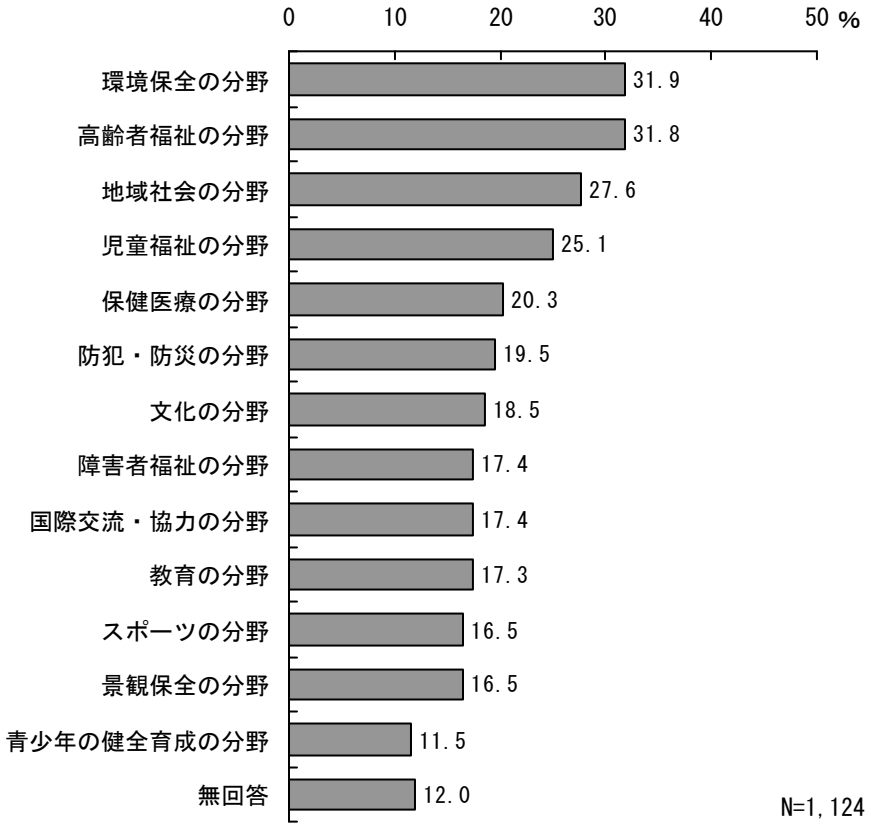


・　市民活動に「現在，参加している」と答えた回答者のうち，参加している分野として多かったのは「地域社会の分野」（46.2%）であった。

・　その他，2 割以上の回答を得た分野として,「高齢者福祉の分野」(24.2%),「環境保全の分野」(22.3%),「防犯・防災の分野」(20.5%) がある。

問　あなたが，今後参加してみたい市民活動は，どんな分野ですか。当てはまるものすべてを選んで番号に○を付けてください。（○はいくつでも）

◆　今後，参加してみたい市民活動として，特に「環境保全の分野」，「高齢者福祉の分野」の意向が高い

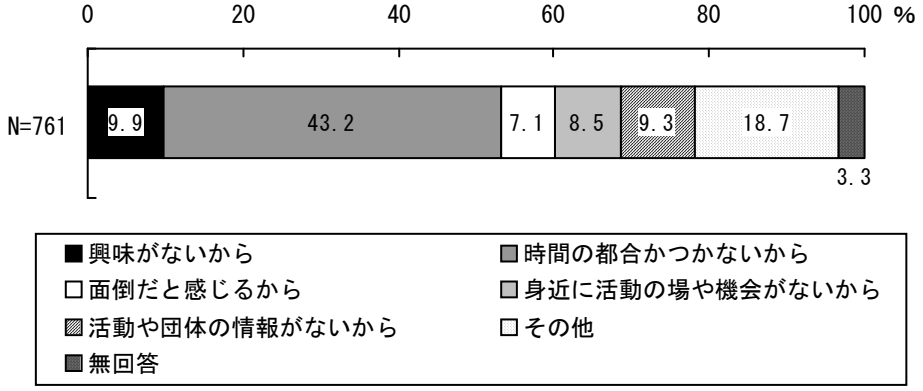


・　「今後，参加してみたいと思う」とした者からは，参加してみたい市民活動の分野についての回答が幅広く得られた。

・　特に参加意向が高い分野は，「環境保全の分野」（31.9%）と「高齢者福祉の分野」（31.8%）であった。

問　参加したいと思わない理由は，どんなものですか。最も良く当てはまるものをア～カのなかからひとつ選んで○を付けてください。（○は１つ）

◆　参加したいと思わない人の約6割が，「時間の都合がつかないから」などが理由であり，参加する環境が整っていないものの，参加そのものへの意欲はあると考えられる



・　「参加したいとは思わない」とした者について，その理由を尋ねた。その結果，「興味がないから」「面倒だと感じるから」といった，参加そのものへの意欲が乏しいと考えられる回答の割合は合計で 17.0％であった。

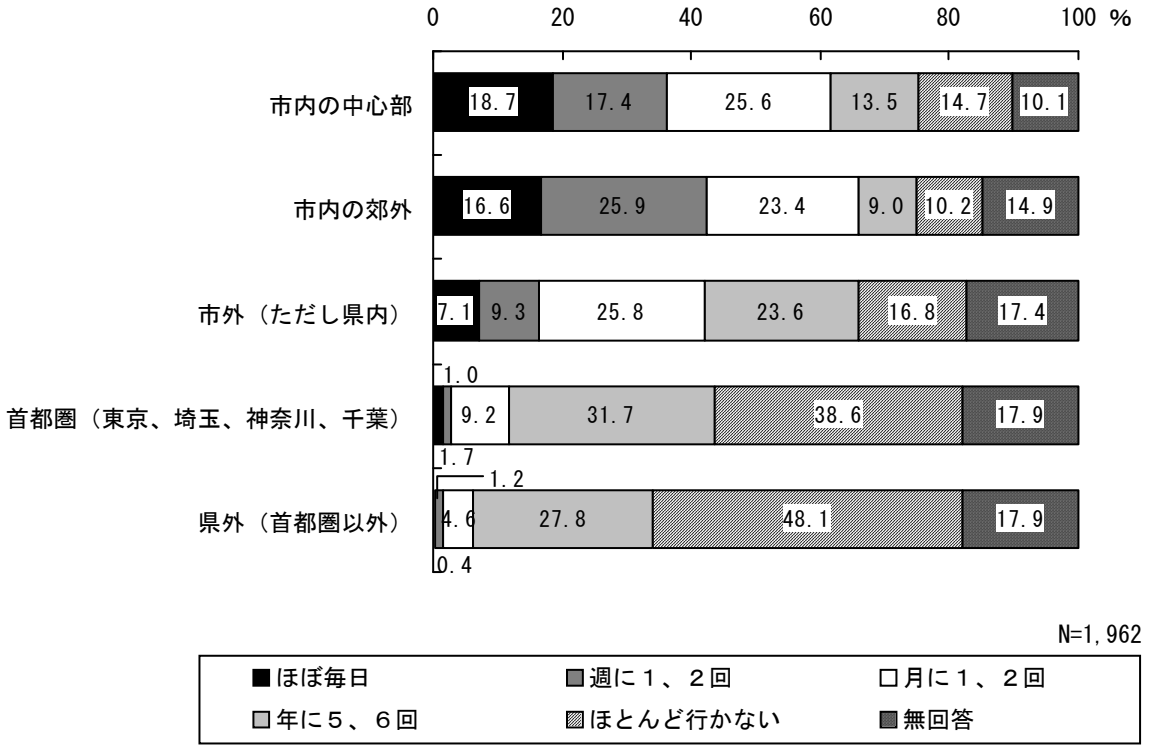
・　一方で，「時間の都合がつかないから」，「身近に活動の場や機会がないから」，「活動や団体の情報がないから」という回答が，合計で 61.0％あった。これらの者は，参加する環境が整っていないものの，参加そのものへの意欲はあると考えられる。

(6) 行動範囲や利用する交通手段などについて

問　次の１～５について，それぞれの場所ごとに，どのくらいの頻度で行きますか。

また，それぞれの場所には主にどのような目的で，どのような交通手段で行きますか。複数の交通手段を使う場合には，主なものをひとつだけ選んでください。（○は「ア～オ」に１つ，「カ～ケ」に１つ，「コ～ソ」に１つ）

◆　訪れる区域として頻度が高いのは，「市内の郊外」，「市内の中心部」の順



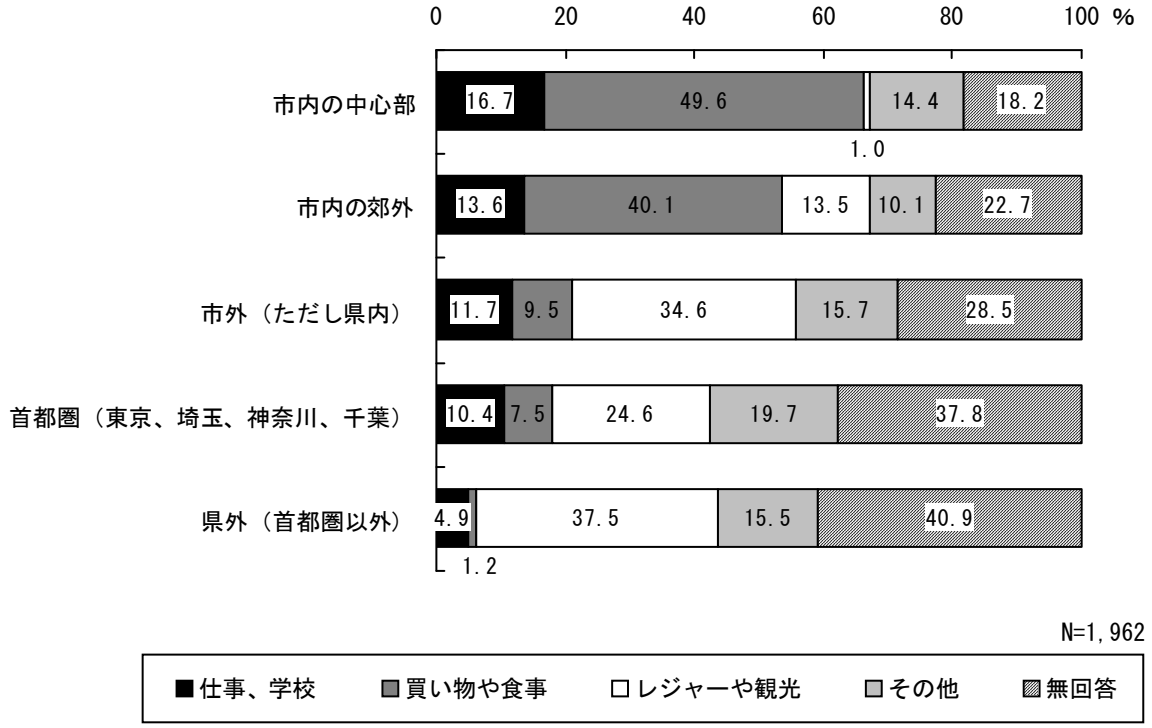
・　「ほぼ毎日」及び「週に１，２回」という高い頻度で訪れる区域として，「市内の中心部」（合計で 36.1%）と「市内の郊外」（同じく 42.5%）がある。このように，頻度の観点からは，中心部よりも郊外の方が高い。

・　首都圏及び首都圏以外の県外については，「ほとんど行かない」という回答が最も多い。これに「年に５，６回」という回答を含めると，あわせて７割から８割を占める。

問　次の１～５について，それぞれの場所ごとに，どのくらいの頻度で行きますか。

　また，それぞれの場所には主にどのような目的で，どのような交通手段で行きますか。複数の交通手段を使う場合には，主なものをひとつだけ選んでください。（○は「ア～オ」に１つ，「カ～ケ」に１つ，「コ～ソ」に１つ）

◆　市内への移動は仕事，学校，買い物，食事のため。レジャーや観光は「県外（首都圏以外）」等へ



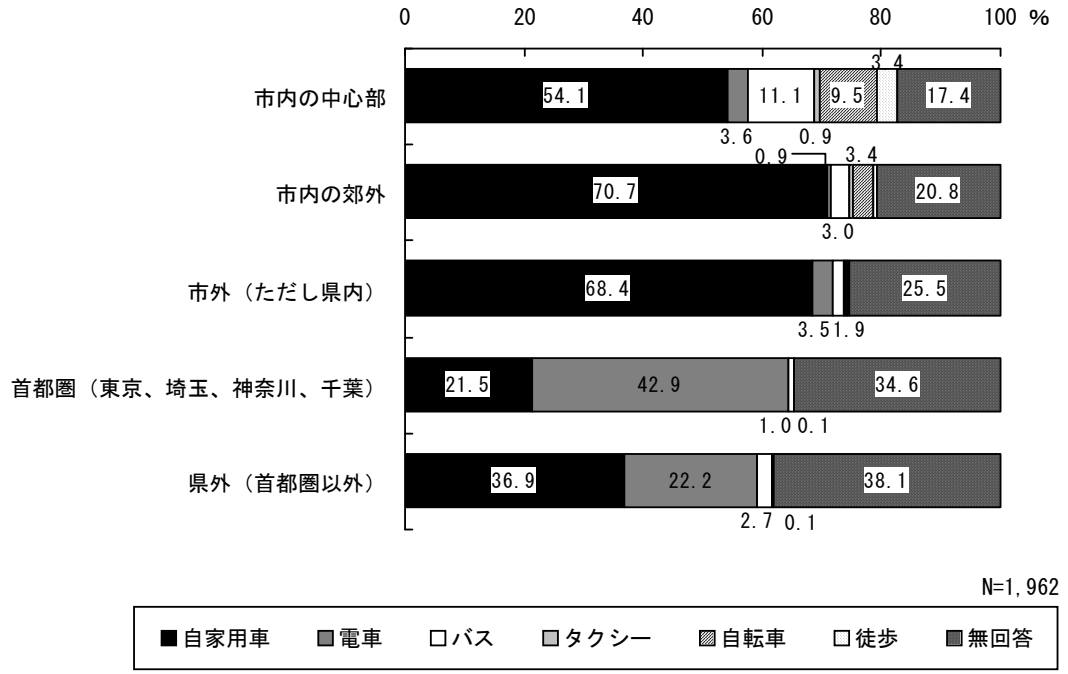
・　「市内の中心部」，「市内の郊外」については，「仕事，学校」，「買い物や食事」を主な目的とするという回答が，全体の５割から６割を占める。

・　「レジャーや観光」については，「県外（首都圏以外）」（37.5%），「市外（ただし県内）」（34.6%），「首都圏」（24.6%）の順に多い。

問　次の１～５について，それぞれの場所ごとに，どのくらいの頻度で行きますか。

　また，それぞれの場所には主にどのような目的で，どのような交通手段で行きますか。複数の交通手段を使う場合には，主なものをひとつだけ選んでください。（○は「ア～オ」に１つ，「カ～ケ」に１つ，「コ～ソ」に１つ）

◆　首都圏以外への交通手段は，総じて自家用車利用が多い



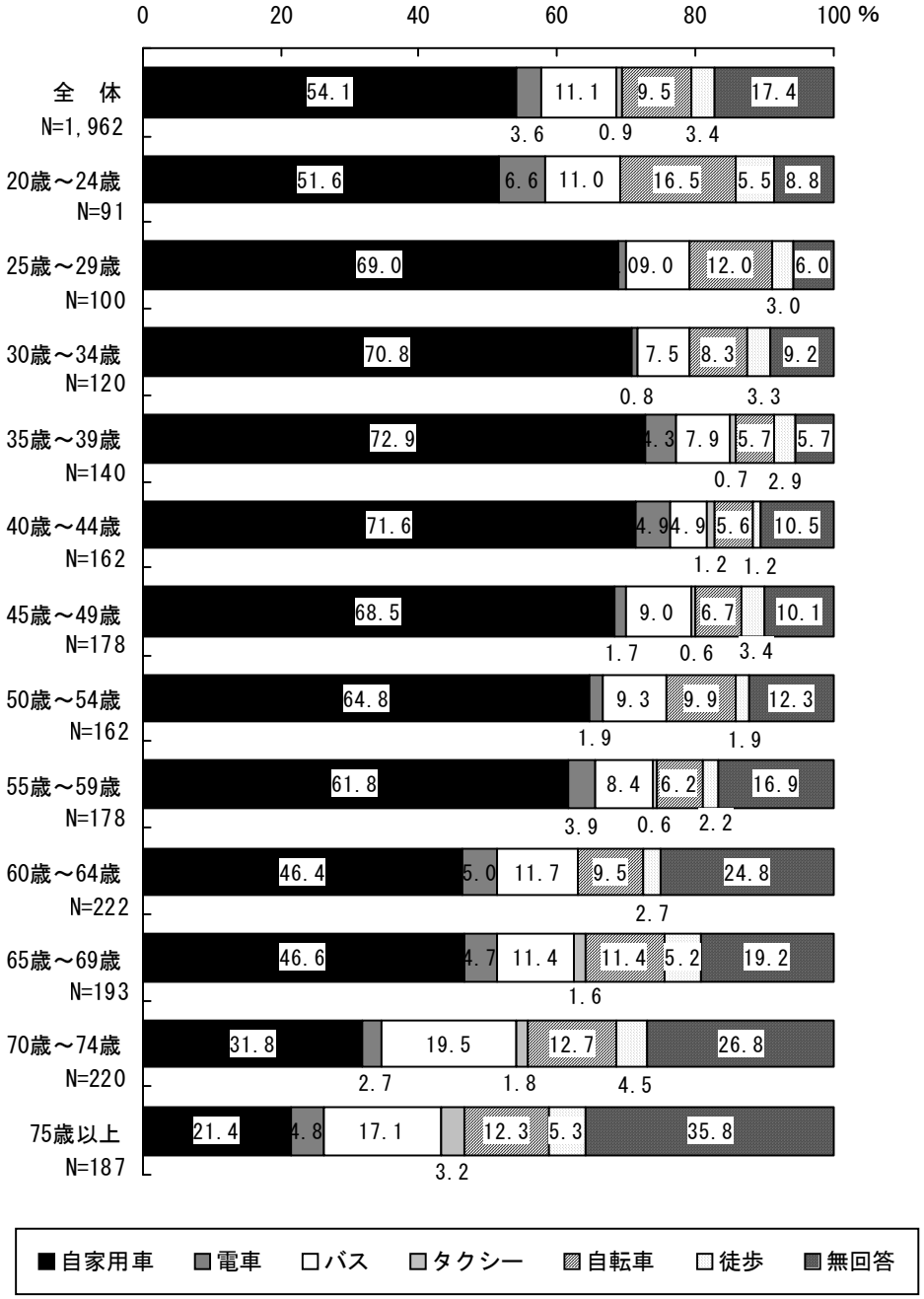
・　交通手段としては，「市内の中心部」，「市内の郊外」，「市外（ただし県内）」については，自家用車の利用が５割から７割に達する。また，「首都圏」「県外（首都圏以外）」についても，自家用車の利用が一定数ある。特に，「県外（首都圏以外）」については，電車を抜いて，自家用車が最も利用される交通手段となっている。

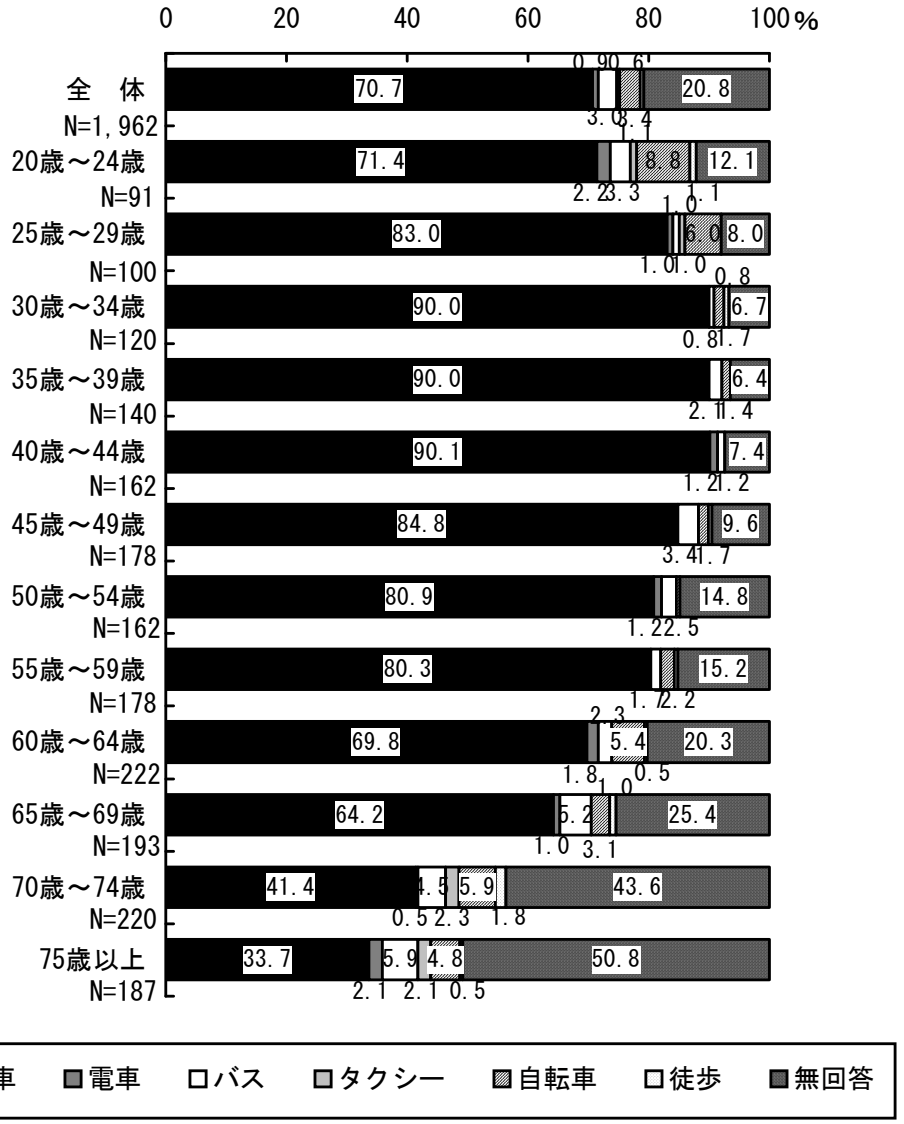
・　バスの利用は，「市内の中心部」において，11.1％の回答があったが，その他の目的地についてはわずかである。

・　電車の利用は，「首都圏」への移動に関しては，42.9％とその利用が高い。

〔参考　「問　行動範囲や利用する交通手段などについて」の「市内の中心部」と年齢の掛け合わせ集計〕

◆　高齢者になるにつれ，自家用車利用率が低下。それに伴い，公共交通の利用率が増加



〔参考　「問　行動範囲や利用する交通手段などについて」の「市内の郊外」と年齢の掛け合わせ集計〕

◆ 30 代から 40 代前半は自家用車利用が約 9 割。高齢者の自家用車利用は比較的少ない